

NPO法人ウェルビーイング

2011年度版 研修会パンフレット

研修翌日から実践できるプログラム



	研修会名	日程	受講料
2 日 コ ー ス	住民の意見を引き出し読み取る ーフォーカス・グループ・インタビューの企画・実施・分析	2011年10月1-2日（土・日） 2011年12月3-4日（土・日）	一般：20,000円 会員： 16,000円 学生：5,000円
	住民会議の上手な進め方 ーファシリテーターとしての役割と能力	2011年11月19-20日（土・日）	
1 日 コ ー ス	健康教育プログラムづくり コース ー行動科学の理論を応用する	2011年9月11日（日） 2011年11月27日（日） 2012年1月14日（土） 2012年3月25日（日）	一般：10,000円 会員：8,000円 学生：5,000円
	プログラムマネジメント研修 会 ーOPPAモデルの活用	2011年11月26日（土） 2012年3月24日（土）	
	評価実践セミナー	2011年12月17日（土）	

※内容・日程が変更になることもあります。変更は随時ホームページでお知らせします。



What's Well-Being

NPO法人ウェルビーイングは、これまでに50以上の地域で健康/福祉のまちづくりの支援を行ってきました。研修会は、実際に地域で応用しながら蓄積したノウハウやツールをたくさん盛り込んだ内容となっています。

受講申込書

NPO法人ウェルビーイング 行き
FAX 092-741-8037

- 「受講申込書」に必要事項をご記入の上、FAXまたはE-mailで当法人宛にお送り下さい。

受講を希望される研修会名 1	
日 程	() 月 () 日 - () 日
受講を希望される研修会名 2	
日 程	() 月 () 日 - () 日

※FAXまたはE-mailアドレスは必ずご記入下さい。

フリガナ		生 年 月 日
氏 名	女・男	19 年 月 日
E-mail		
フリガナ		
勤務先名	(職種:)	
連絡先	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 勤務先	
所在地	〒 TEL () FAX ()	
備 考		

<受講申込書の取り扱い>

受講申込書にご記入いただいた項目につきましては、本会が責任をもって管理し、お申込み下さった研修会について、的確な情報提供を行わせていただくために使用します。また、本会が行う各種研修会や他のご案内をお送りするためにご記入いただいた情報を使用することがあります。送付をご希望されない場合は、お手数ですが下記の「希望しない」にチェックして下さい。

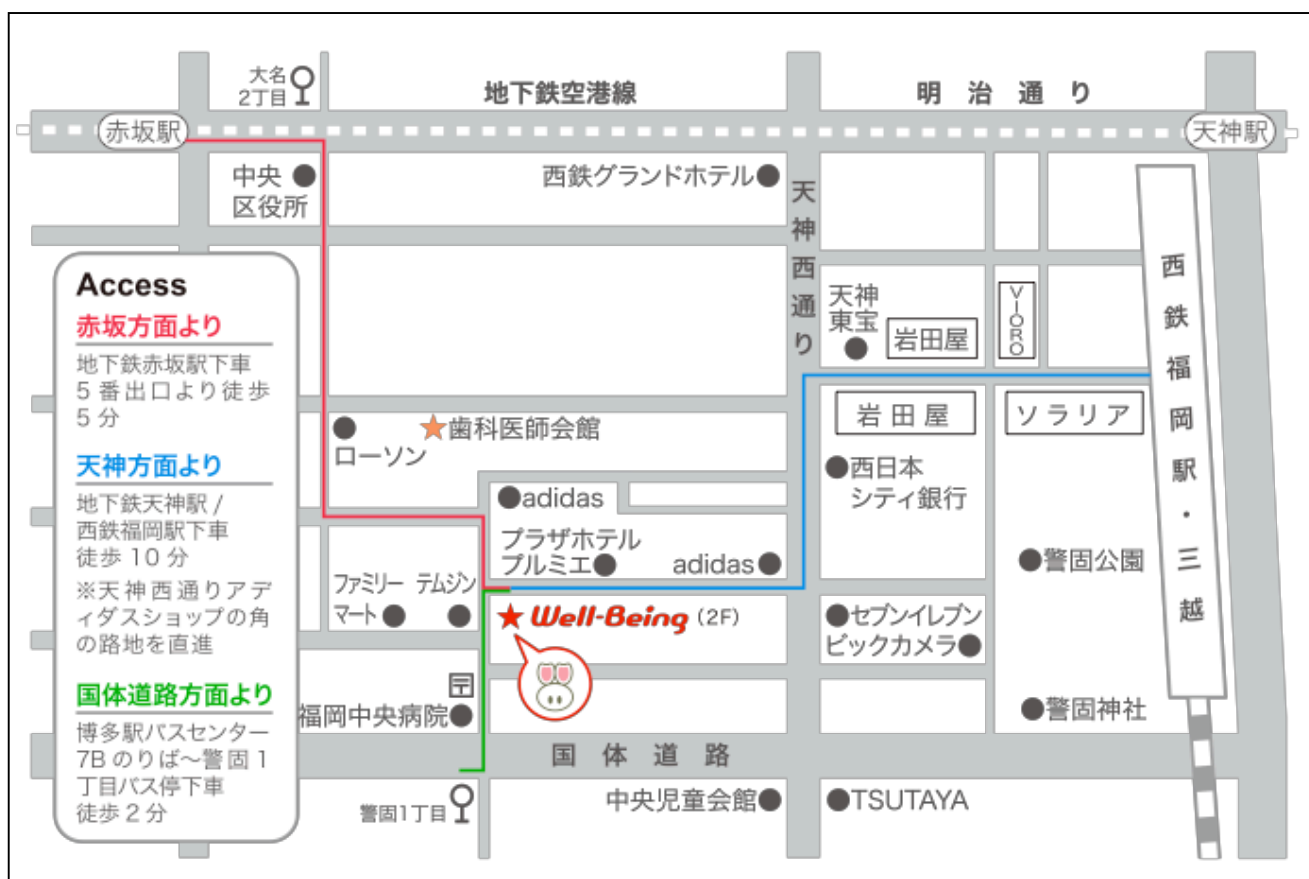
希望しない

ATTENTION



NPO法人ウェルビーイング TEL 092-771-5712 FAX 092-741-8037
E-mail iwai@well-being.or.jp

会場地図



出張研修会あなたの地域、職場で上記の研修を開催してみませんか？

まずは、お電話（092-771-5712：岩井）ご相談下さい。

人数：20名以内

研修料金：半日コース5万円（*）、1日コース10万円（**）、2日コース15万円
プラス 講師旅費（実費）

*半日コースは、プログラムの一部を体験していただくコースになります。

**フォーカス・グループ・インタビュー、ファシリテーターの研修は1日コースでの開催も可能ですのでご相談下さい。

依頼者様側でご準備いただくこと・もの

：会場の手配、テキストの印刷、研修道具の準備

*12名以内の場合はNPO法人ウェルビーイング事務所（福岡市）が使用できます。

その他、講演会への講師派遣も行っています。



住民の意見を引き出し読み取る

～フォーカス・グループ・インタビューの企画・実施・分析～

■ こんなあなたにおすすめ

- ・会議で参加者の意見を引き出したい
- ・対象者のニーズを探る手法を知りたい。住民の声を活かした事業を実施したい。
例) 障害者福祉、支援者へのサポートなどで使いたい
現在すすめているまちづくりに活かす
特定保健指導の対象者のニーズを知りたい
- ・フォーカス・グループ・インタビューを調査手法の一つとして使いたい
例) 障がい者の人はどんなニーズを持っているの？
なぜ、保健指導を受けてくれないのか？

■ おすすめのポイント

人の意見を引き出すためのインタビューの企画・実施・分析を学べます。
実際にインタビューを予定している・実施した方は、
ご自身のテーマについてアドバイス致します。

■ スケジュール（予定）

1日目	
レクチャー1	ヘルスプロモーションにおけるFGIの意義
レクチャー2	MIDORIモデルについて
演習1	カード演習
レクチャー3	情報について-量的情報と質的情報-
レクチャー4	フォーカス・グループ・インタビューについて
演習2	企画書作り

2日目	
演習3	司会者の手引きづくり
演習4	模擬フォーカス・グループ・インタビュー
レクチャー5	質的情報の分析
演習5	データの切片化
レクチャー6	データのコーディング
演習6	構造化
レクチャー7	FGIの結果をどう利用するか
質疑応答	

● これまでの参加者の声より

- ・実例をまじえての説明がわかりやすかった（千葉県：保健師）
- ・具体的なアドバイスが多く得られた（東京都：医師）
- ・実際に司会をしてみて大変さだけでなく大切さを実感できた（長野県：保健師）
- ・演習形式でデータの切片化、コーディングが具体的に理解できた（大阪府：教員）

健康教室プログラムづくりコース

～行動科学の理論を応用する～

◎こんな方におすすめです。

■ こんなあなたにお勧め

- ・ 特定健診・保健指導で効果の出るプログラムを作りたい。
- ・ 健康教育を基礎から学びたい。
- ・ 健康教室を組み立てられ、運営できるようになりたい。

■ おすすめのポイント

必要な理論や技法を学ぶだけでなく、それらをプログラムに取り入れる方法まで学べます。

■ スケジュール（予定）

演習1	WIFY
レクチャー1	健康教育のベースとなる理論：ヘルスプロモーション、エンパワーメント
レクチャー2	健康教育のスタンス：健康学習理論、疾病解釈モデル
レクチャー3	健康教育の戦略：ステージモデル、ポピュレーションストラテジー
演習2	健康教育で使えるツール：MIDORIモデル、2次元マッピング
演習3	行動変容の理論やツール：保健信念モデル、自己効力感
レクチャー4	行動の継続のための理論やツール：セルフモニタリング、強化因子、逆戻り防止
レクチャー5	健康教育の企画
演習1	プログラムづくり1 対象とねらいの決定
演習2	プログラムづくり2：教室の目指す姿と各回のねらい
レクチャー6	評価について

●これまでの健康教育セミナーの参加者の声より

- ・ 実践的な内容で色々な意見が出ておもしろかった（宮崎県：保健師）
- ・ 健康教育従事者はこのようなトレーニングを受けて現場へでることが望ましい（北海道：歯科医師）
- ・ いろんな理論やツールを整理する機会になってよかった（広島県：保健師）

住民会議の上手な進め方

～ファシリテーターとしての役割と能力～

■こんなあなたにおすすめ

- ・会議は多いけど、ムダな会議ばかり・・・。職場での会議を効果的に進めたい。
- ・住民とグループワークをするけど、方法がわからない。
- ・グループワークを取り入れているが参加者が満足できる内容になりにくい。
参加者の意見や思いを取り入れ、かつ効果の出る進め方を学びたい。
- ・リスクコミュニケーションの場面でファシリテーションを活かしたい。

■おすすめのポイント

明日から会議で使える手法を講義や演習を通して学べます。

他の人のファシリテーションを見ることで多くの気づきがあります。

■スケジュール

1日目	
演習1	WIFYの体験と自己紹介の司会
レクチャー1	住民参加
レクチャー2	ファシリテーター
演習2	参加者同士の「思い」を共有する方法（カードを使ったブレインストーミング）
演習3	「思い」を整理して問題を抽出する方法（KJ法）
演習4	優先順位をつける方法（ノミナルプロセスメソッド） 2×2の表を使った優先順位付け

2日目	
演習5	記録をとる
レクチャー3	プログラムマネジメント
演習6	アイデアを具体化する方法（APCの作成）
演習7	参加者から意見を引き出す司会の方法
レクチャー4	プレゼンテーション
演習8	プレゼンテーションの企画書&資料作成
	質疑応答

●これまでの参加者の声より

- ・参加者が自分の意見をしっかり聞いてくれ共感してくれたこと、これは、体験できて、非常に大切なことだと感じました（兵庫県：歯科衛生士）
- ・苦手とする分野の研修会なので身構えて参加したが、実際経験してみると非常にわかりやすく吸収できたと思う（岐阜県：歯科医師）
- ・ファシリテーターとしての気配り、こえかけの大切さを学んだ（福岡県：女性）

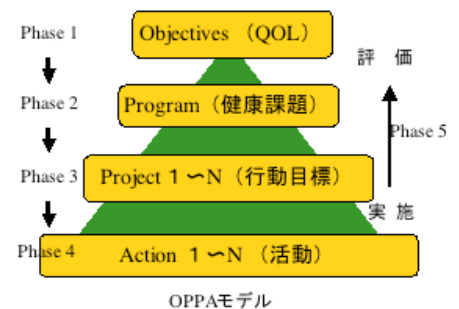
プログラムマネジメント研修会 ～OPPAモデルの活用～

■こんな方におすすめです。

- ・みんなの意見を引き出し、結果のでる会議の運営を行いたい方
- ・グループワークの具体的な手法を学びたい方 など

■OPPAモデルとは

NPO法人ウェルビーイングでは、1993年以来、LW Greenの直接の指導も受けながら健康づくり、さらにはその先のQOLの向上を目指すPrecede-Proceed modelを地域での歯科保健や健康づくりの支援活動に使ってきました。現場で利用する際には、実情に合わせていろんな工夫を行っています。その結果、大枠も細部もいろんなところでPrecede-Proceed modelから少しずつはずれていき、結果として、独自のモデルOPPA（オーパ）モデルへと昇華していきました。OPPAモデルは基本的には地域における住民参加のモデルとして利用していますが、複雑に絡まった糸を解きほぐし、切れた糸を繋ぎ、間違っていて結ばれたいとを切っては正しいものと結びつけるといった手法は他の場面にも応用可能です。



■スケジュール

レクチャー1	ヘルスプロモーション
レクチャー2	健康って何だろう？
レクチャー3	OPPAモデル・Phase0 事前準備
レクチャー4 & 演習1	Phase1 Well-Being診断：QOLの特定
演習2	Phase2 Well-Being診断：健康課題の目標値の設定
演習3	Phase3 優先順位づけ
演習4	活動計画を立てる
レクチャー5	計画の実施
レクチャー6	住民参加
レクチャー7	評価について

●これまでの参加者の声より

- ・行政の人間は受けさせるべきである講習だと思います。事業の進め方というより、現在の業務自体もこのモデルで整理してやれるかも？と思いました。（長崎県：食品衛生監視員・薬剤師）
- ・色々なツールが改変され、使いやすかった。（大阪府：保健師）

評価実践セミナー

■ こんなあなたにおすすめ

- ・ 評価を行う予定だが、どう進めていいのかわからない方
- ・ 評価を求められているが、具体的な方法がわからない方
- ・ 現在、実施している計画や事業、教室などの効果を確認し、改善につなげたい方 など

■ オススメのポイント

評価は、現在の取り組みや活動を見直し改善する、事業の有効性を外部の人に理解を得るために非常に重要です。この研修では、評価の考え方、具体的な方法を演習や講義を通して学ぶことができます。少人数制になっていますので、現在、評価を予定している活動や事業の資料をお持ちいただければ、具体的なアドバイスを受けることもできます。

■ スケジュール（予定）

オリエンテーション	自己紹介 演習：あなたが評価したいものは？
レクチャー1	ヘルスプロモーションにおける評価とは？
レクチャー2	評価の方法について：量的評価
レクチャー3	評価の方法について：質的評価
レクチャー4	プログラム・マネジメントとしてOPPAモデル
演習1	評価計画を立てる
レクチャー5	プログラムマネジメント：地域での計画策定の評価
レクチャー6	プロジェクトマネジメント：産業保健での取り組み
	質疑応答

● これまでの参加者の声より

- ・ 即実践できる手がかりが出来た（大阪府：歯科医師・男性）
- ・ （評価することで）活動に弾みがつくと感じました。（三重県：歯科医師・男性）
- ・ 早速帰って身近なところからやってみようという気になった。評価計画で色々な意見もいただき参考になった。遠くから来たかいがあった。（広島県：保健師・女性）
- ・ どこから取りかかったらいいのかが分からなかったけど、取っかかりを見つけたような気がする。（兵庫県：保健所職員・女性）
- ・ つい専門分野にのめりこみがちだが、演習で意見をもらい視野を広くできた（栃木県：大学教員・女性）
- ・ 自分の中の気持ちを言葉にする作業があり、頭の中で整理がついた。自分の活動にひろがりができそう（大阪府・短大教員・女性）